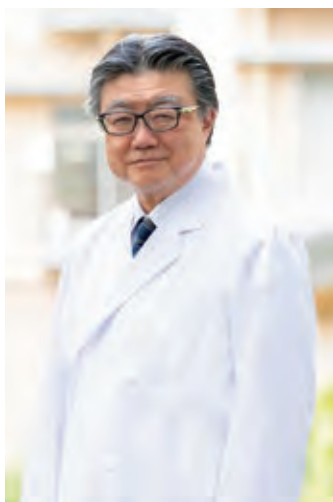


国立研究開発法人

国立精神・神経医療研究センター

National Center of Neurology and Psychiatry

世界で活躍する専門家による、めざましい研究成果
緑の風薫る病院でのやさしい医療の提供
研究所と病院が一体となり疾患克服をめざす



国立研究開発法人
国立精神・神経医療研究センター
理事長 中込 和幸

脳と心と体の 最先端医療に取り組む



—精神・神経・筋疾患及び発達障害を克服する—

国立精神・神経医療研究センター (NCNP) のミッションのひとつは、病院と研究所が一体となり、精神疾患、神経疾患、筋疾患、及び発達障害の克服を目指した研究開発を行うことです。NCNPでは病院と研究所のほか、4センター（トランスレーショナル・メディカルセンター、メディカル・ゲノムセンター、脳病態統合イメージングセンター、認知行動療法センター）が設置され、それぞれ臨床研究の分野における「病院と研究所の橋渡し」、「ゲノム医療」、「脳神経画像」、「認知行動療法」を行うとともに、重要な研究基盤として下支えを行っています。また、複数の部門が連携して一気通貫で治療法の開発につながるように、多発性硬化症、筋疾患、てんかん、パーキンソン病、睡眠障害、統合失調症、気分障害、認知症、嚥下障害、薬物依存症、ニューロモデュレーション、COVID-19罹患後症状の12の領域における専門疾病センターを開設し、研究開発を行うとともに、研究成果を生かして高度先駆的医療を提供しています。

—高度先駆的医療の提供、全国への普及—

NCNPでは、他医療機関では対応困難な患者さんへの医療提供に取り組んでいます。全国から集まる神経難病、希少疾患の方に高度専門的な診断、治療を提供しています。また、薬物治療抵抗性の精神疾患、運動障害、てんかんに対して、先端的なニューロモデュレーション療法を行っています。不安、うつを伴う精神・神経疾患では、幅広く認知行動療法を提供するとともに、その研修を通じて認知行動療法の全国への普及活動を行っています。

現代社会における発達障害、うつ病、認知症などの精神・神経疾患の急増は国家的課題です。また、健康・生活への負荷の指標である「障害調整生存年数」の上位には精神・神経疾患が数多く位置づけられており、その克服は世界で喫緊の課題です。

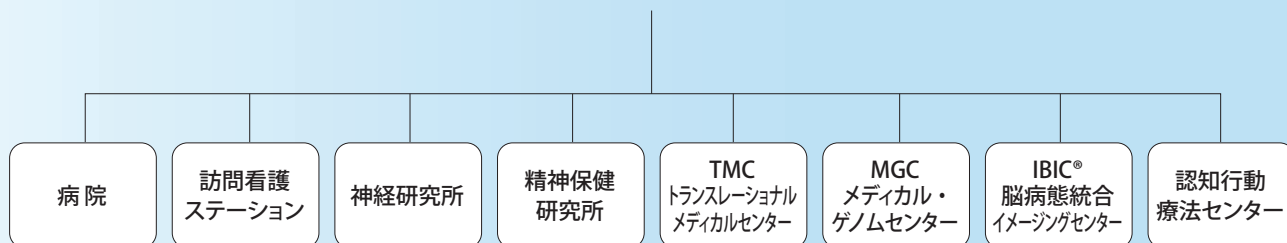
—世界で唯一の施設として—

NCNPは精神・神経疾患に特化し、臨床と研究が同じ敷地で連携しているという点で、世界でも類のない存在です。職員一同が一体となり、疾患の克服だけでなく、予防や早期介入によって国民の皆様の健康や生活への負荷の軽減にも取り組み、多くの方々の心と体の健康に寄与すべく邁進する所存です。皆様のご協力とご支援をどうかよろしくお願いいたします。

施設構成



国立精神・神経医療研究センター



精神・神経・筋疾病、発達障害の克服のために、
研究と医療が一体となった
国立高度医療研究センター



使命 Mission

研究・開発

国立高度専門医療研究センターとして、精神・神経疾患等の臨床研究推進のための中核的役割を担い、基礎研究はもとより、臨床研究、治験を円滑に実施しています。また、多くの外部施設との共用研究基盤整備を行い、研究資源の適切な活用を実現する司令塔機能を果たすこと等を通じて、国際水準の研究成果を継続的に創出することを目指しています。

医療の提供

精神・神経疾患等の研究成果を活かし、患者さんをはじめ皆様の生活の質の向上を目指した医療を提供します。特に、希少疾患や重症・難治性疾患等については、症例、臨床情報の集約を行い、高度先駆的な医療を提供しています。また、これらの疾患の特性による、患者さんのご家族や介護者等の身体的、精神的、経済的負担等に配慮した支援も行っています。

人材育成

レジデントやリサーチフェロー等への充実した教育・指導システムによって、専門性を有するリーダー的人材の養成を進めるとともに、医療従事者等に対する各種モデル的研修・講習の実施を推進しています。また、地域医療の指導的役割を担う人材や臨床研究の推進者を育成し、医師、研究者以外の職種にも対応した課程も整備しています。

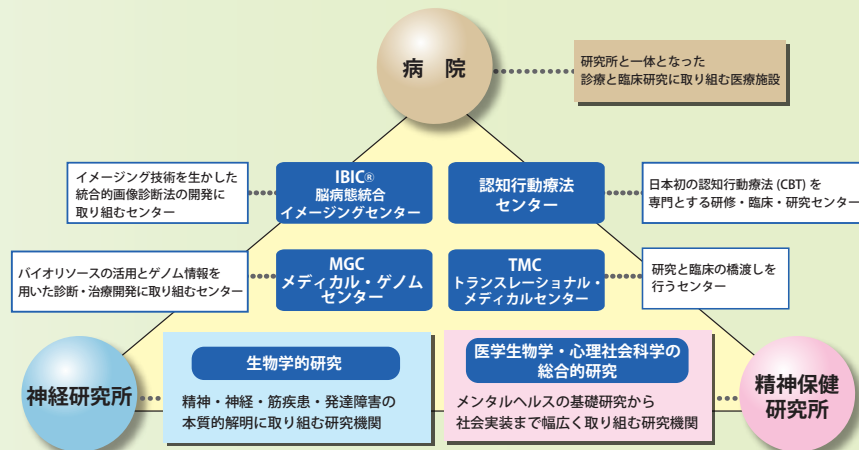
情報発信

精神・神経疾患等に関する基本情報や、予防・診断・治療法等について、様々なメディアや関係機関を通じて、適切な情報発信を行っています。また、特に災害等の緊急時においては、蓄積した信頼性の高い研究成果に基づく実用性のある情報提供を迅速に行っています。

政策提言

精神・神経疾患等に関する政策の企画・立案に関して、先行研究の分析、疫学研究、臨床研究等により、様々なサポート・貢献をしています。また、地域保健政策や障害福祉政策等、患者さんをはじめ皆様の生活に直結する課題に対し、国内外での研究成果や実態調査結果等に基づく、専門的な政策提言を行っています。

施設の連携



精神・神経・筋疾患、発達障害(神経発達症)の本質的解明という
難題に取り組み、診断・治療・予防に
真のブレイク・スルーをもたらす



世界トップクラスの精神・神経・筋疾患、発達障害(神経発達症)の研究機関

神経研究所は、国立高度専門医療研究センターの研究機関として、原因や治療法がわからないさまざまな精神・神経・筋疾患、発達障害(神経発達症)を対象として、それらの診断・治療・予防法の開発を目指した生物学的研究をおこなっています。分子細胞生物学的アプローチを中心に、生理学や脳イメージングも積極的に取り入れ、特に橋渡し研究や臨床研究に繋がるシーズを生み出す研究に重点を置いています。

世界でも類を見ない実験動物施設群

広大なセンター敷地内に、小型実験動物棟と総合実験動物棟の2つの動物実験棟を有し、総合実験動物棟の中は、中型動物実験施設、霊長類実験施設、小型動物実験施設の3つの施設に分かれています。

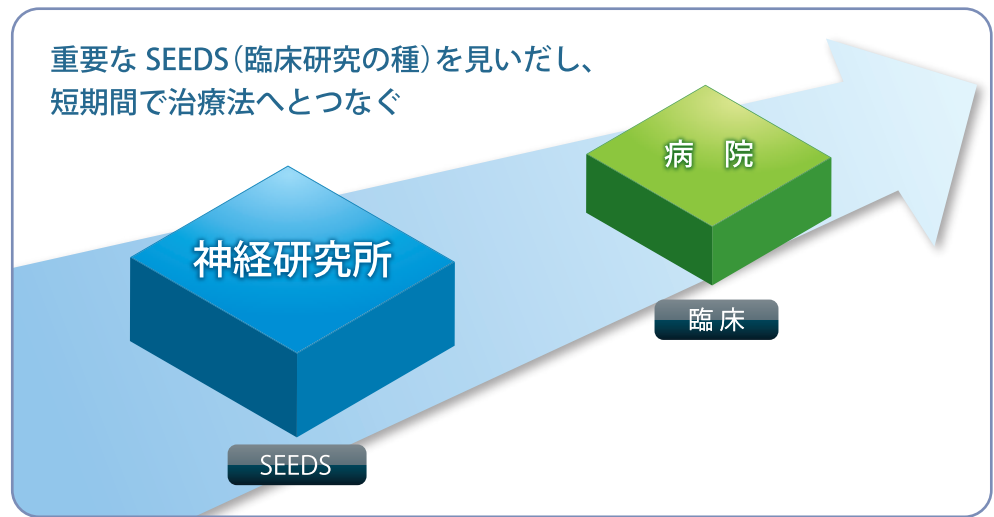
小型実験動物棟を合わせた4種の動物実験施設によって、マウス、ラットのみならず、筋ジストロフィーの研究に欠かすことのできない筋ジストロフィー犬、マウス・ラットに比してヒトの精神・神経疾患の研究に必要な高次脳機能を持つマーモセット等の霊長類を用いる研究まで、センター内で行うことができます。これらの動物関連施設は、世界でも稀有なスケールを誇ります。

開放的で国際的な研究環境がいざなう多彩な研究陣

神経研究所では、常勤定員制の研究者に加え、国内・海外を問わず多様な研究員受け入れ制度の導入によって、優秀な人材を集めることに成功しています。また、東京科学大学、東京農工大学、東京大学、早稲田大学、信州大学、明治薬科大学等多くの大学と連携大学院制度を締結し、若くエネルギーに満ちた大学院生を受け入れ、斬新なプロジェクトを最先端の機器と手法を用いて研究しています。そして、その開放的な環境を背景に、様々な分野の研究者が有機的に連携して貴重な研究成果をあげています。国内はもとより、米国、欧州、アジア諸国等からも研究員が集まり、また、ハーバード大学やマックスプランク研究所等、海外機関との共同研究にも盛んに取り組んでいます。



重要な SEEDS (臨床研究の種) を見だし、
短期間で治療法へとつなぐ



6つの疾病研究部門

疾病研究第一部	筋疾患の病態解明と治療法開発を目指す
疾病研究第二部	神経疾患および発達障害(神経発達症)のメカニズム解明のための最先端の神経生物学的研究
疾病研究第三部	精神疾患への脳科学的アプローチ
疾病研究第四部	アルツハイマー病や変性疾患など神経・精神疾患の根本治療を目指す
疾病研究第五部	神経変性・再生メカニズムの解明と神経保護的疾患治療法の開発
疾病研究第七部	統合的イメージングをもちいた脳病態生理の解明と情報医療の開発

6つの基盤研究部門

病態生化学研究部	高度で精緻な脳の形成の分子機構の研究
微細構造研究部	神経回路の発生・発達と高次脳機能発現の仕組みの研究
遺伝子疾患治療研究部	遺伝子治療、幹細胞治療を中心とした神経・筋疾患治療を目指す
免疫研究部	脳自己免疫疾患(特に多発性硬化症)の治療法開発を目指す
神経薬理研究部	臓器間ネットワーク・老化と脳機能の連関の解明研究
モデル動物開発研究部	行動発現の脳内機構とその病態を理解する

研究サポートユニット

実験動物管理室

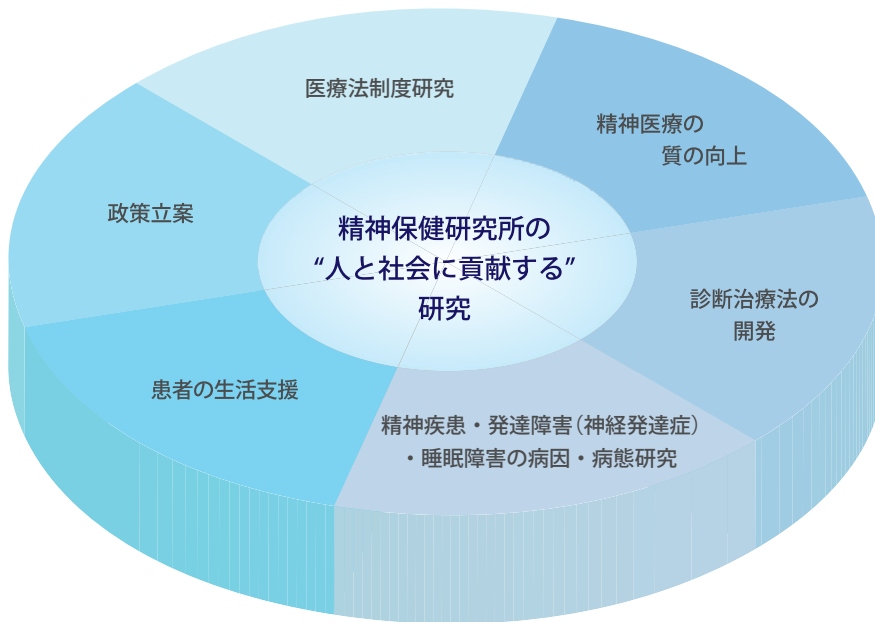
ラジオアイソトープ管理室

霊長類管理室

国民のメンタルヘルスにかかわる臨床的・基盤的研究成果を、政策立案に資する提言および医療と福祉を通じて還元し、精神疾患、発達障害(神経発達症)、睡眠障害、メンタルヘルス不調をもつ人々を支える



精神保健研究所では、精神疾患や発達障害(神経発達症)の病因・病態を明らかにし、客観的な診断方法およびよりよい治療や支援方法を開発するため、国際的にもトップクラスの研究を行っています。また、精神医療の質の向上のため、NCNP病院、全国の医療機関、行政機関等と連携し、高度先駆的な診断と治療法の均てん化を推進しています。研究成果を広く保健医療福祉関係者や国民に還元するため、専門研修や一般向け講演、政策提言等を積極的に行っています。



研修風景



多職種アウトリーチチーム

精神保健研究所のミッション

研究を通じて“人と社会への貢献”を実現する

1. 精神保健の政策的研究(国や自治体等への政策提言)
2. 基盤的な脳科学の研究(精神疾患・発達障害(神経発達症)の病因・病態研究)
3. 臨床還元型研究(診断、治療、リハビリテーション、生活支援)
4. 法制度関連の研究(当事者・家族支援や権利擁護に関わる仕組みの検討)
5. 重度ストレス状況下での心理反応対策
6. 精神医療・精神保健に関わる専門性の高い人材の育成



研究の推進

研究の成果を政策へ

公共精神健康医療研究部	国内の精神保健医療福祉関連データなどの集計を通じた、精神保健医療福祉の現状把握、臨床疫学研究等を通じた政策立案への貢献
薬物依存研究部	薬物乱用・依存の実態把握と依存性薬物の作用機序研究を通じた薬物対策への貢献
地域精神保健・法制度研究部	精神障害者の地域生活を支援する、効果的なサービス・システムの開発と実証研究を通じた制度設計への貢献
睡眠・覚醒障害研究部	国民の健康増進を推し進めるための政策立案および普及・啓発ガイドラインの策定への貢献

研究の成果を臨床へ

行動医学研究部	ストレス、トラウマに関連したPTSD、うつ病、摂食障害等の疾患の病因・病態解明および治療法開発
児童・予防精神医学研究部	精神障害の早期発見・介入法と予防・治療法の開発、および児童から青年期における精神障害の病態解明
精神薬理研究部	精神医学・神経科学・薬理学・ゲノム科学の連携による精神神経疾患治療薬の作用機序解明、適正使用推進、新規開発
精神疾患病態研究部	統合失調症、気分障害、発達障害(神経発達症)等の病態解明と診断法・治療法の開発、精神科治療ガイドラインの普及・教育・検証活動
睡眠・覚醒障害研究部	睡眠・覚醒障害および生体リズム障害の病態解明、精神身体機能への影響の解明、高精度な診断・治療法の開発
知的・発達障害研究部	知的障害、自閉スペクトラム症、ADHD、学習障害等の発達障害(神経発達症)の病態解明、早期診断と新規治療法開発

情報発信と人材育成

ストレス・災害時こころの情報支援センター	災害、犯罪被害等の重篤なストレスを生じる事態についての調査研究、対処法開発、指針作成、情報提供、国内外の関係機関・団体との協働
----------------------	---

研修及び啓発

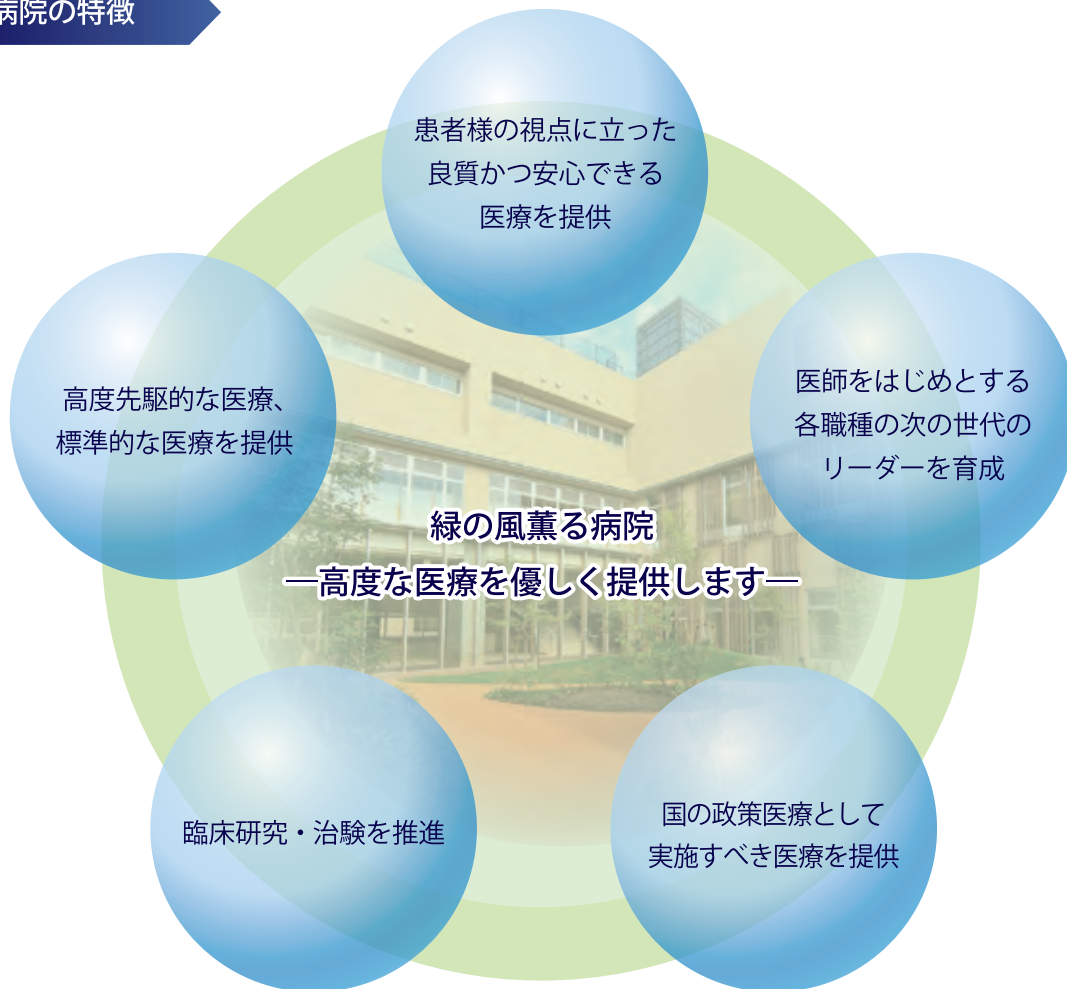
- ・専門知識習得のための数日間の講座を定期的を開催
- ・年間2,300名程度が受講

災害時PFAと心理対応研修	薬物依存臨床医師・看護師等研修
認知行動療法の手法を活用した薬物依存症に対する集団療法研修	摂食障害治療研修(外来・入院・小児)
発達障害者支援研修	摂食障害専門研修
精神科救急医療体制整備研修	統合失調症の標準治療研修
うつ病の標準治療研修	PTSD対策専門研修
精神保健医療福祉データ行政活用研修	入院者訪問支援事業研修

研究所と一体となって診療と研究に取り組み、
精神・神経・筋疾患と発達障害(神経発達症)の克服を目指す

センター病院は、脳や神経・筋肉の病気の原因を解明し、診断・治療を発展させるため、日本の研究と医療をリードする役割を持った病院です。これらの脳や神経・筋の病気の中には、原因が分からず治療法も乏しい難病も数多く存在しています。また、これらの病気に罹ったために仕事や日常生活が妨げられて「生活の質 (QOL)」が低下して困っている方も大勢います。私たちは、これらの心や精神の病気、神経の病気、運動が妨げられる筋肉の病気、発達障害（神経発達症）をもつ患者の皆様に対して、人権を尊重しながら誠意をもって、高い医療技術を提供していきます。

当病院の特徴



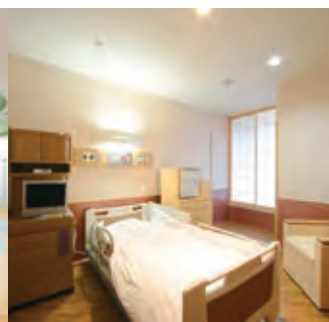
屋上庭園

手術室

小児外来

個室特室

スタッフステーション



部門構成

医療安全管理部	医療安全管理室
	感染防止対策室
	新治療開発管理室
精神診療部	
児童精神診療部	
司法精神診療部	
臨床心理部	臨床心理室
脳神経内科診療部	
脳神経小児科診療部	療育指導室
脳神経外科診療部	
総合内科部	栄養管理室
循環器内科	
総合外科部	
整形外科	
歯科	
外来部	
ゲノム診療部	遺伝カウンセリング室
てんかん診療部	
手術・中央材料部	医療機器中央管理室
麻酔科部	
放射線診療部	
臨床検査部	睡眠障害検査室
身体リハビリテーション部	遺伝子検査診断室
精神リハビリテーション部	
医療連携福祉相談部	国際連携推進室
薬剤部	地域連携医療福祉相談室
看護部	専門看護室
教育研修部	臨床研究教育研修室
	教育研修室
臨床研究支援部	臨床研究・治験推進室
	臨床研究支援室
	生命倫理室
情報管理・解析部	モニタリング室
	データマネジメント室
	生物統計解析室
	臨床研究計画・解析室

専門外来

精神科	統合失調症 気分障害 睡眠障害(成人) 電気けいれん療法(ECT) / 反復経頭蓋磁気刺激療法(rTMS) 認知行動療法 薬物依存症
児童精神科	発達障害(神経発達症) 不登校
脳神経小児科	てんかん(小児) 筋疾患(小児) 睡眠(小児) 学習障害
脳神経内科	パーキンソン病 筋疾患(成人) 多発性硬化症 脊髄小脳変性症 ボツクス
脳神経外科	てんかん外科(小児・成人) 脳深部刺激療法(DBS) 水頭症 成人脳波(検査)
てんかん診療部	てんかん(成人)
総合内科	コロナ後遺症 筋電図(検査)

通所リハビリテーション

精神科デイケア・作業療法
リワークデイケア

自由診療

セカンドオピニオン(対面・オンライン)
遺伝カウンセリング
脳ドック
骨ドック

専門疾病センター

多発性硬化症センター	筋疾患センター
総合てんかんセンター	パーキンソン病・運動障害疾患センター
睡眠障害センター	統合失調症早期診断・治療センター(EDICS)
気分障害センター	認知症センター
嚥下障害リサーチセンター	薬物依存症センター

センター病院は臨床研究、ならびに教育・研修活動に力を入れています。臨床研究や医師主導治験を安全、円滑に行うための支援、診療や臨床研究に関わる教育・研修プログラムを NCNP 内外に提供しています。

臨床研究・教育研修部門
Clinical Research & Education Promotion Division

CREP

1. 臨床研究・医師主導治験の推進
2. 臨床研究・医師主導治験のデータサイエンス
3. 医療・臨床研究従事者の資質向上を目指した教育・研修



▲臨床研究ワークショップの様子

臨床研究支援部

- ・企画、プロトコル作成支援
- ・プロジェクトマネジメント
- ・レギュラトリーサイエンス
- ・薬事支援
- ・実施支援
- ・患者レジストリ構築支援

情報管理・解析部

- ・品質マネジメント
- ・モニタリング
- ・データマネジメント
- ・生物統計学的支援、データ解析
- ・臨床疫学

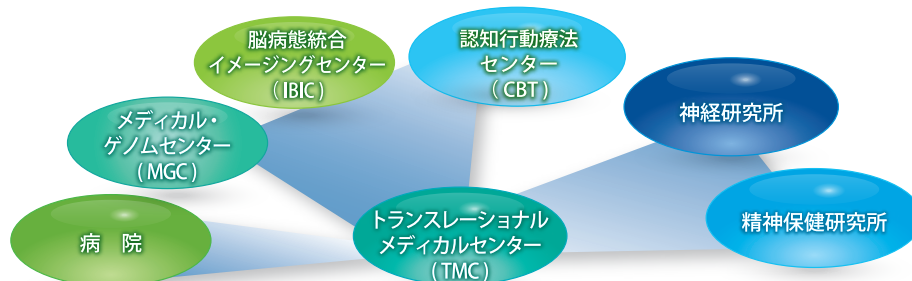
教育研修部

- ・若手研究者向け研究活動の支援と指導
- ・若手育成カンファレンス
- ・臨床研究ワークショップ
- ・各種セミナー

トランスレーショナル・メディカルセンター Translational Medical Center (TMC)

CREP と連携し医療と基礎研究の橋渡し、
産学連携活動の推進、臨床研究の管理を担う

研究シーズの発掘、育成、産学連携活動の支援を通して臨床開発ならびに社会実装の推進を担います。
また NCNP で行われる臨床研究のマネジメントを担います。



開発戦略室

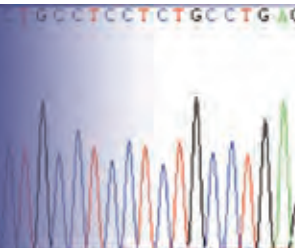
臨床開発につながるシーズを見出し、臨床開発に発展させる戦略立案に関する支援を行います。

ビジネス
ディベロップメント室

産学連携活動や知財に関わる相談、契約支援を行います。

臨床研究監理室

臨床研究の適正な管理を行います。



精神・神経・筋疾患、発達障害領域のバイオリソースの
 利活用を推進し、ゲノム情報を利用した新しい診断法・
 治療法の開発と臨床応用を支援する

メディカル・ゲノムセンターは、「遺伝子・ゲノム情報」と「バイオリソース」を臨床情報と結びつけて保存・
 活用し、付加価値の高い研究資源として、新しい診断法、治療法、予防法を開発し、それを臨床応用します。病院、
 研究所、IBIC、TMC と連携して、事業を進めていきます。

組織構成

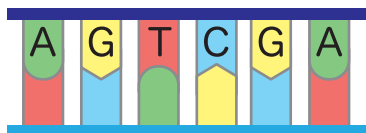
ゲノム診療開発部

臨床ゲノム解析室

統合ゲノム診断室

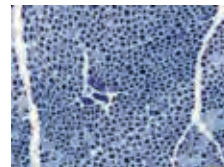
ゲノム解析を用いた探索医療開発

- ・ゲノム情報の取得と解析
- ・臨床情報との連結を含めたデータ管理
- ・ゲノム情報の臨床的有用性の検証
- ・遺伝子・ゲノム研究の倫理



ゲノム医療の支援

- ・ゲノム・遺伝子診断の開発・応用
- ・病理学等の評価を加えた統合的ゲノム診断の開発・応用
- ・ゲノム以外のオミックス情報の利用
- ・人材育成



バイオバンク部

バイオリソース管理室

利活用推進室

バイオリソースの管理と利用

NCNPバイオバンク



3つの強み

- ✓ 国際水準のマネジメント：日本初の ISO 20387 認定取得
- ✓ 脳脊髄液の収集：健常者を含め7,200件以上を保有
- ✓ 豊富な利活用実績：国内外・産官学で360件以上の活用実績

NCNPバイオバンクは、精神・神経疾患の克服に向け、高品質な試料と情報を研究者へ提供します。

試料検索が可能:NCBNカタログDB

分子検査センター

分子解析室

精度管理室

分子検査による診断支援

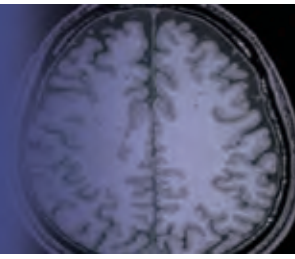
- ・保険診療で行う遺伝子検査等の実施
- ・登録衛生検査所として医療法等に準拠した信頼性の高い検査体制
- ・バイオバンクと連携した検体・データの統合活用



研究基盤と臨床検査を融合し次世代の分子診断を実現

2025年6月に「NCNP衛生検査センター」として衛生検査所登録を取得。
 現在は院内検査を中心に実施。

さまざまなイメージング技術の特長を活かした
統合的画像診断法を開発し、脳病態生理の解明を目指す

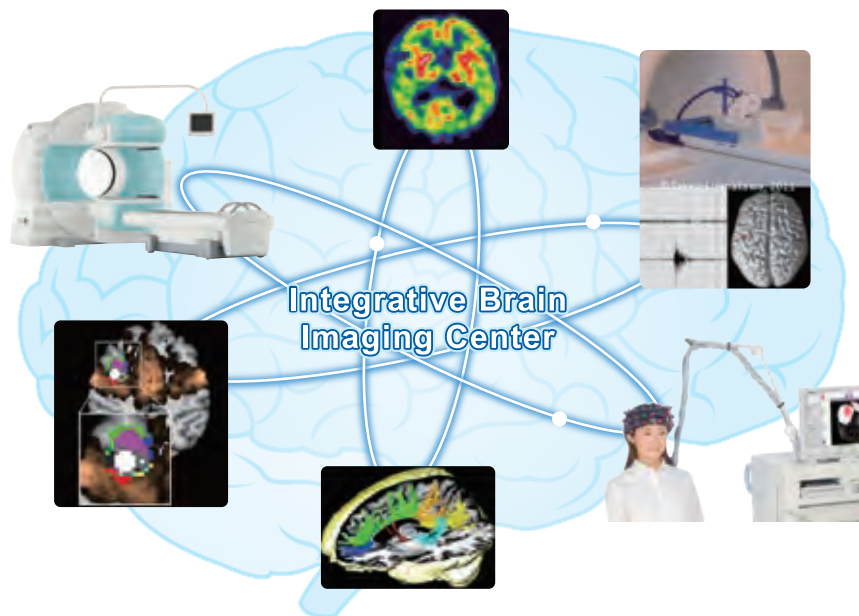


脳病態統合イメージングセンターは、NCNP の二つの研究所並びに病院と密に連携し、精神・神経・筋疾患、発達障害に対する統合的イメージング研究を推進しています。また、イメージングをもちいた多施設共同研究の中核施設として、わが国の臨床画像研究を牽引します。

組織概要	
先進脳画像研究部	臨床脳画像研究部
<ul style="list-style-type: none"> 統合脳画像研究室 モデル動物画像研究室 放射性トレーサー研究室 神経生理研究室 神経情報工学研究室 	<ul style="list-style-type: none"> 臨床脳画像診断研究室 臨床光画像研究室 画像情報解析研究室 画像データベース研究室

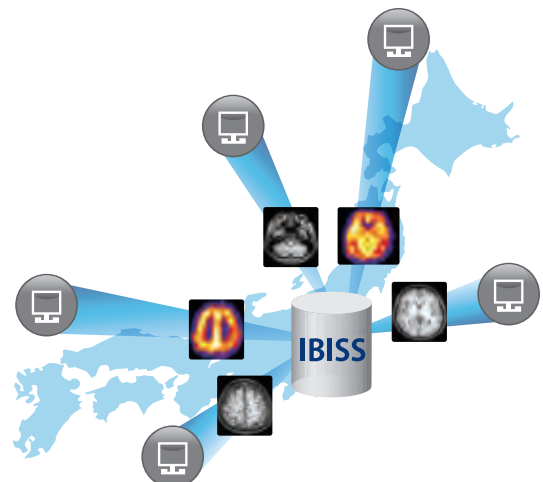
統合的イメージング研究の推進

イメージング技術は、それぞれが異なる長所と短所を持っています。磁気共鳴画像 (MRI)、ポジトロン断層像 (PET)、脳磁図 (MEG)、近赤外光トポグラフィー (NIRS) など、複数の脳イメージング技術を有機的に組み合わせることにより、脳の機能と構造を明らかにする新しい画像診断技術を開発し、脳病態生理の解明に迫ります。



画像ネットワークの構築

イメージングを用いた多施設共同研究のためのオンライン・サポートシステム「IBISS」、および画像データベースを構築します。IBISS は全国的な臨床画像ネットワークのハブとして機能します。





薬物療法と並ぶ精神疾患治療法
—認知行動療法—の

専門家を育て、研究を推進し、提供する使命を担う

認知行動療法センター (CBT センター) は、日本初の認知行動療法 (CBT) を専門とする、研修・研究・臨床支援のためのセンターです。私たちは、国内最先端の認知行動療法の研究と研修を通じて、日本の精神医療技術の向上と、よりよい精神医療サービスを患者さんに提供できる社会の実現を目指しています。



認知行動療法 (CBT : Cognitive Behavior Therapy) とは

ストレスによる気分の落ち込みや身体的な反応等に対して、認知行動科学の諸理論や行動変容の諸技法を用いて、それらを患者自身がセルフコントロールできるようにすることで、症状の改善や再発予防につなげることを目的とした治療法。

センター概要／沿革

Outline / History



NCNPのシンボルマークについて
中央には、患者様の生命(こころ)を表す赤い円を、その左には「Institutes(研究所)」の頭文字「I」を、そして、右には「Hospital(病院)」の頭文字の「H」を配し、研究所と病院が一体となって精神・神経疾患等の克服を目指し、患者様を守っていく理念を表現しています。「青」はこころを律する色であり、また精神を安定させる効果があるともいわれ、平和で穏やかな色でもあることから、基調色として使用しています。

概要

名称	国立研究開発法人 国立精神・神経医療研究センター
設立	平成22年4月1日

理事長	中込 和幸	監事(非常勤)	菱山 園子
理事	張 賢徳		大貫 良太
理事(非常勤)	中里 道子		
	黒松 百亜		
	下郡 智美		

理事長	中込 和幸
病院長	戸田 達史
神経研究所長	岩坪 威
精神保健研究所長	張 賢徳
トランスレーショナル・メディカルセンター長	小牧 宏文
メディカル・ゲノムセンター長	松本 直通
脳病態統合イメージングセンター長	
認知行動療法センター長	久我 弘典

沿革

病院	昭和15年12月 昭和20年12月 昭和53年1月 昭和61年10月	傷痍軍人武蔵療養所として設立 厚生省に移管、国立武蔵療養所として発足 研究センター(国立武蔵療養所・神経センター)を併設 国立精神・神経センター設置により、同武蔵病院に改称
神経研究所	昭和53年1月 昭和61年10月	国立武蔵療養所・神経センターとして設立 国立精神・神経センター設置により、神経研究所に改称
精神保健研究所	昭和27年1月 昭和61年10月	国立精神衛生研究所として設立 国立精神・神経センター設置により精神保健研究所に改称
センター	昭和61年10月 昭和62年4月 平成17年3月 平成17年7月 平成20年4月 平成20年10月 平成22年4月 平成22年9月 平成23年4月 平成23年12月 平成26年7月 平成27年4月 平成27年5月 令和2年4月	国立武蔵療養所、同神経センター、国立精神衛生研究所を統合し、国立精神・神経センターを設置 国立国府台病院が国立精神・神経センターに加わる 精神保健研究所が小平地区へ移転 全国で初の医療観察法病棟(8病棟)を新設 国府台病院は国立国際医療センターへ組織移管 武蔵病院は国立精神・神経センター病院に改称 トランスレーショナル・メディカルセンター(TMC)発足 独立行政法人国立精神・神経医療研究センター設立 センターとして2つ目の医療観察法病棟(9病棟)を新設 センター新病院竣工 脳病態統合イメージングセンター発足 認知行動療法センター発足 精神保健研究所に災害時こころの情報支援センター開設 教育研修棟竣工 国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センターとなる メディカル・ゲノムセンター(MGC)発足 訪問看護ステーションを設置 国立高度専門医療研究センター医療研究連携推進本部を設置



研究所本館



研究所3号館



総合実験動物棟



国立研究開発法人 国立精神・神経医療研究センター
National Center of Neurology and Psychiatry (NCNP)

基本理念

病院と研究所が一体となり、精神疾患、神経疾患、筋疾患、及び発達障害の克服を目指した研究開発を行い、その成果をもとに高度先駆的医療を提供するとともに、全国への普及を図る。

Philosophy

Our hospital and institutions should work together in research and development to overcome mental disorders, neurological and muscular diseases, and developmental disorders with the mission to use our research results for providing advanced medical services and to spread our services across the country.



〒187-8551 東京都小平市小川東町 4-1-1 [事務部門・病院]
 〒187-8502 [神経研究所]、〒187-8553 [精神保健研究所]
 TEL: 042-341-2711 [代表]

〒187-8551 4-1-1 Ogawa-higashi-cho, Kodaira-shi, Tokyo(Administration Office, Hospital)
 〒187-8502 (National Institute of Neuroscience)
 〒187-8553 (National Institute of Mental Health)
 TEL: 042-341-2711

<https://www.ncnp.go.jp/>



交通アクセス / Access Map

- ◆西武新宿線拝島行または多摩湖行にて「萩山駅」(南口)下車、徒歩7分
- ◆JR中央線「国分寺駅」乗換え、西武多摩湖線にて「萩山駅」(南口)下車、徒歩7分
- ◆JR武蔵野線にて「新小平駅」下車、徒歩10分
- ◆無料シャトルバス
「萩山駅」↔「病院前」↔「新小平駅」
- ◆Take the Seibu Shinjuku Line bound for "Hajima" or "Tamako"
Get off at "Hagiyaama" station (south exit)
7 minutes walk from the station.
- ◆Take JR Chuo Line bound for "Kokubunji" Station.
Get off at "Hagiyaama" Station on the Seibu Tamako Line.
7 minutes walk from the station.
- ◆Take JR Musashino line and get off at "Shinkodaira" station.
10 minutes walk from the station.
- ◆Free shuttle bus
"Hagiyaama" Station ↔ Hospital ↔ "Shin-Kodaira" Station

